発行：　めぐみバプテスト教会　（NO1）平成19年10月7日　編集責任者　湯浅　修

めぐみの糧

「人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによる。」（マタイ4章4節）

人生の展覧会

人生の展覧会というものが、ある時ある場所で開かれた。どんなものが並べてあるか、人々は好奇心を持って見に出かけた。

第1会場

入ってみると真っ暗だ、どうしたことかとたずねると、この世の解説者が言うことに、

〝人生は真っ暗さ、明日も分からぬ暗闇よ、望みの光などこの世には、いくら探してもありつこない。〟

第2会場

入ってみると驚いた、あるはあるは靴ずらり、この世の解説者が言うことに、

〝人生は靴（苦痛）ばかり、大きな靴（苦痛）に、小さな靴（苦痛）

この世の旅路を終えるまで、靴（苦痛）だけが、履き物さ。

そこへ来た天国の解説者の言うことに、嘆くには及びません、このほかに第3会場があるのです。そこは、望みと喜びの部屋さ。さあご案内致しましょう。

さあ、ここが第3会場です。解説は後で致しますから、まずは、作品をご覧ください

第3会場

「誰がこんなに払えるか！」

ロシアの皇帝アレキサンドルは、変装して部下の中に入り、彼らの様子を知るのが好きであった。ある晩、彼は兵舎に入り、それとなく兵士たちの話に耳を傾けていた。

ある天幕に入ると、若い将校が机にもたれかけて、ぐっすりと眠り込んでいる。皇帝は爪先を立てて近づき、その青年将校の肩ごしから覗いて驚いた。なんと机の上には、装填されたピストルが置いてあるではないか。そのそばには、一枚の紙があり、それには、ばくちによる負債の額がずらりと書き並べてあった。

皇帝は数字の列に目を通していたが、一番下に目を移すと、総額の書いてある欄の下に「誰がこんなに払えるか！」と書いてあったので、強く心をひかれた。

すべてが氷解した。この青年将校はばくちに負けて、持っているものを全部なくし、それだけでなく、ばくだいな額の負債を負いこんだのである。考え苦しんだあげくに、彼は自分の頭を射お元気に披いて、事の結末をつけようとしたに違いない。そして「誰がこんなに払えるか！」と書いたあとで、心労の余り眠りにおちいったのである。やがて彼は目をさまし、そして…

初め皇帝は、この不都合な将校を強く詰問しようとした。しかしその将校の親が自分の友人であることを思い浮べたので、考えを変えた。

彼は落ちていたペンを取り上げてインクにひたし、「誰がこんなに払えるか！」と書いてあるすぐ下に、「アレキサンドル」と書き加え、足音を立てずにその場を立ち去った。その中に青年将校は目をさまし、こめかみにピストルをあてた。これが人生の最後かと悲壮な思いに駆られた。ところで引鉄を引く前に、負債額の表に最後の一瞥を与えたのである。そして思わず驚いたように、体をかがめて見直した。たしかに「アレキサンドル」と書いてあるではないか。

翌朝、皇帝の所から使者が来て、彼にばくだいな額のお金を渡した。こうして、彼の負債は皆支払われ、彼の命は助けられた。

さて、この青年将校の立場は、私やあなたの立場ではないでしょうか？

天国の解説者……イエス・キリストは十字架の上で、私たちの罪の価を全部払って下さいました。十字架にかかって、わたしたちの罪をご自分の身に負われました。

「キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです」（第二ペテロ2・二四）。私たちの罪がみなゆるされ、神の子必要とされる費用の全部を、イエス・キリストは私、あなたのために払って下さったのです。

私は、あなたが、感謝して、イエス・キリストが完成して下さった救いを信じて、受けいれられることをお勧めいたします

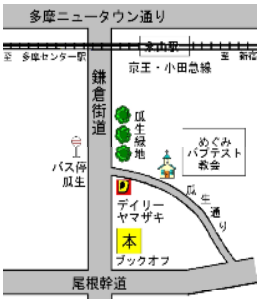
「あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの＊賜物です。（＊賜物＝贈り物）行ないによるのではありません。だれも誇ることのないためです。」（エペソ2・八）。

（教会は、どなたでもおいでいただけます。一切費用はかかりません。何でもご相談、御質問下さい。お待ちしております。

牧師、湯浅修）

めぐみバプテスト教会

東京都多摩市永山6-2-5永井ビル2F



Tel.　042-374-2311　FAX　042-374-2311

木曜日	夜 7:00～ 8:30	祈り会
日曜日	朝 9:30～10:25	日曜学校
	朝10:45～12:15	礼拝

牧師:　湯浅　修(ゆあさおさむ)
メール：　qrdgp763@ybb.ne.jp
携帯 TEL：　080-5053-9206（湯浅）